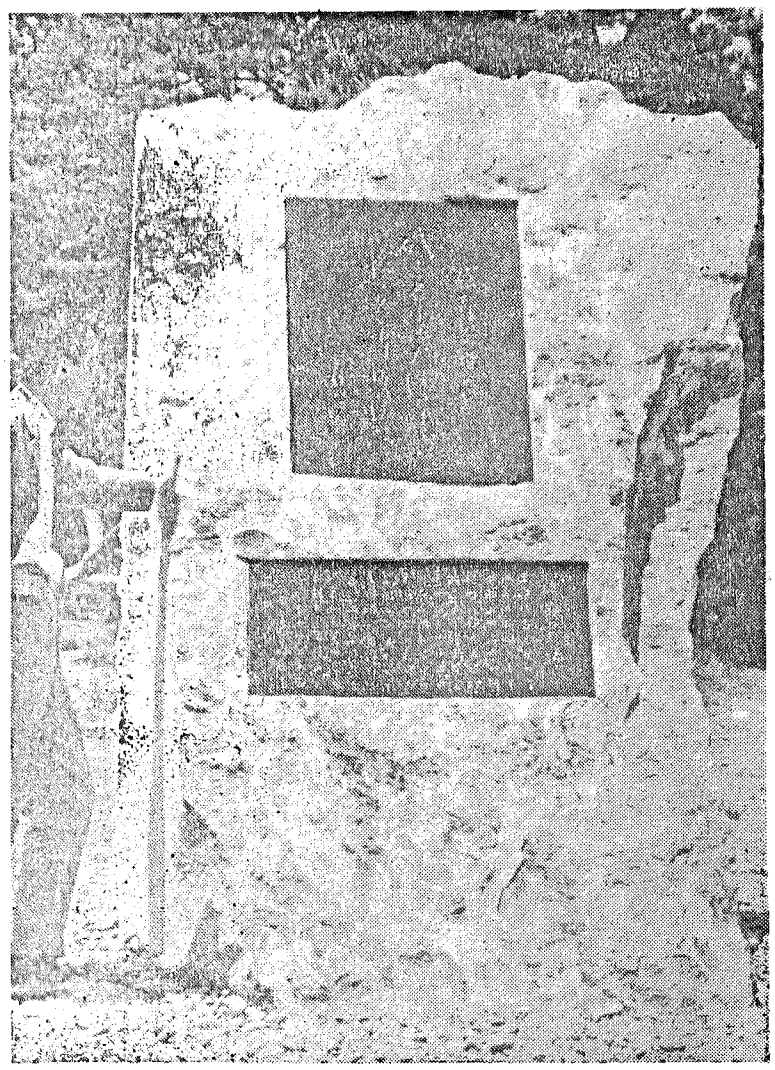
おおあらい
第32号
発行所　大洗町役場
発行人　加藤清
印刷所　新いばらきタイムス社
TEL　水戸②五二八（代）

第一回磯節まつり

『磯節発祥の地』碑建つ



わたくしたち永年の懸案の一つにあった磯節発祥の地の記念碑が、五月晴の下に大洗の松林を背に、岩に砕ける白波を眼下に見、尋も優れた風光の地に建設され、去る五月十五日除幕式が盛大に挙行されました。

当日は午前十時、地元関係者、各来賓の方々が多数出席せられ、いとも厳粛に除幕式を行なわれました。つづいて磯節に功績のあった次の方々に町長より感謝状が贈られました。故渡辺竹楽坊、故関根散議略安中、故常陸山谷衛門、西条八十、鬼沢ふで、大洗本場磯節保存会、関根孝太郎、大久保景朗

中野石材店　次に町長の挨拶、来賓の祝辞、磯節の至宝故関根安中のレコードと、テイチク専属歌手で当町出身浜久美子の磯節を披露相手喝采の中に式を閉じました。

午後よりは、記念行事として、新築なった大洗一中学校の体育館で一部、二部、三部にわかれて行事が行なわれました。

第一部　磯節とおどり一を浜久美子、本場磯節保存会の出演により華々しく開幕されました。

第二部　新作磯節歌詩発表会

かねて募集中の新作歌詩応募一、一〇〇首の内より入選五首、佳作十首を審査委員長より発表があり入選者に観光協会長より賞状、賞金の授与が行なわれ、つづいて入選歌詩を地元有志により歌われ拍手をあびた。

入選歌詩は次のとおりです。

一、沖の鴎も素通り出来ぬ、ここは常陸の大洗　東京都駒込　田村南海

一、汐の香りが肌身に沁みて夢も濡れましょ大洗　行方郡　北浦村　照賀　紅村

一、磯馴松から鳥居がのぞく月の出を待つ人を待つ　大洗町　泥野潮

一、ゴルフリンクに若草萌えて恋もほのぼの磯娘　鉾田町　菊山信子

一、鹿ら浦眺き大洗様の松もかすみの棚換様　鉾田町　泥老原夢中

第三部　磯節のど自慢コンクール

地元は勿論町外より多数参加、のどを競い合いました。

受賞者は次の方々です。

一等知事賞　水戸市　高橋木一

二等商工労働部長賞　那珂湊市　桐山広

三等大洗町長賞　水戸市　鯨沼きぬ

四等大洗町議会議長賞　大洗町　藤沼竹次郎

五等大洗町観光協会長賞　水戸市　小林きく

以上で第一回磯節まつりの行事を滞りなく午後四時終了いたしました。

いろいろと行事について御批判がありましたが本年は第一回でもあり記念碑を主眼とし行いました。

来年の磯節まつりは、早期に企画をたてみなさんに満足されますよう心掛けております。

どうぞみなさんの御協力を期待しております。

今月の納税

固定資産税　第二期分

全町民の協力

納税成績九十九％

わが大洗町は年々飛躍的な伸展をとげていますが、この財源となる町税は、皆さんの理解あるご協力によって、昭和三十八年度の町税納入状況は、実に九十九％の好成績をあげることが出来ました。

あとの残りの一％の滞納と云うのは、よそは転出した人々や、行方不明の人、生活困窮の人々です。

もう一息の処ですので今年度はどうしても一〇〇％完納になる様日夜町でも努力しております。

どうぞ明るい町造りの為今年度もご協力を下さいます様お願いします。

尊い戦歿者に対し

勲章、勲記の伝達

大東亜戦争にて戦歿された。軍人軍属の方方に対し、今回国より勲章並びに勲記が授与されました。

本町では次の十一名の方方に第一回の授与がなされ、去る六月二十四「役場楼上において、加藤町長より御遺族の方にそれぞれ伝達授与されました。

今回の伝達は第一回であり、今次戦争による戦歿者のうち、死亡されたときに叙位の資格を有すると認められるものに対して、今後五ケ年に亘り叙位、叙勲が行われる予定です。（写真は加藤町長より伝達を受ける遺族の人達）

陸海別	戦歿者氏名	受領者氏名	続柄	住所
陸	田中　操	田中　ひさ	母	磯浜町一、二四九
〃	中野谷三郎	中野谷菊次郎	伯父	〃　六四
〃	関根　茂	関根　とめ	母	〃　一、〇五八
〃	山戸　東介	山戸　佑玆	弟	〃　八九八
〃	田中　操	田中　ひさ	母	〃　一、二四九
〃	中野谷三郎	中野谷菊次郎	伯父	〃　六四
海	桜井　一男	桜井　きん	母	〃一、〇八三～三
〃	関根　清	関根　とみ	妻	〃　九一七
〃	関根　静	関根　はま	母	〃　二〇二
〃	本田　元一	本田　三次郎	兄	〃五、二九一ノ二
〃	森山　留吉	森山　そて	母	〃二、七九二

砂利道から舗装道へ

町内道路着々整備

町の発展はます道路の整備から一産業の振興のためにも、文化生活実現のためにも、動脈の役目を果す道路の整備と改善は誠も重要な仕事です。町では早々町内を走る道路の整備と舗装化に努力を注いできましたが、ことしも昨年に引続き幹道をはじめ、町道の舗装を次の通り実施しています。

なおこれと同時に、最近事輌の激増により交通量の甚るしい増大に伴い、既存の道路では交通マヒの状態になることがしばしばありますので、新線道路の計画を、目下都市計画と平行し是非実現したいと考えています。町民皆様方の深い御理解と御協力をお願いいたします。

記

昭和三十九年度町内道路舗装

一、町道第一号線（スルガヤ電局前より水道水源池まで）延長五〇五米、工事費一、八三七〇〇〇円

二、那珂湊～大洗線（祝町小学校前より町営住宅まで）延長四五〇米工事費一、八三七〇〇〇円

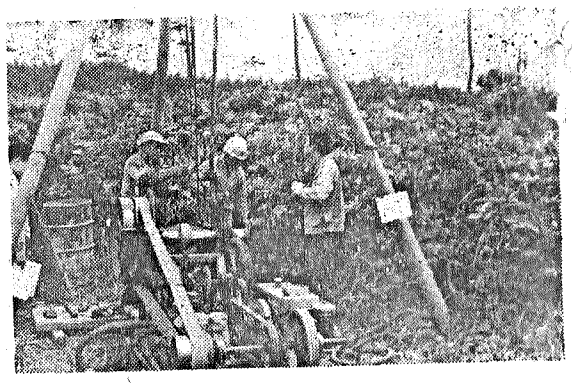
三、大洗～長岡線（大貫小学校前より先）延長二一八米　工事費、六三〇、〇〇〇円

四、那珂湊～大洗線（仲町桜井洋品店より東京電力大洗事務所まで）延長四〇〇米　工事費八、〇五〇、〇〇〇円

五、大洗公園線（水族館手前より光延長三六〇米　工事費九、八九九、〇〇〇円

大洗原研建設準備室発足

地質や地下水の状況調査



大洗町原子力研究所は、昨年以来地主各位の心からの御協力により、用地の購入もほとんど終りましたので、いよいよ本格的な建設工事に入るべく、去る五月十五日大洗原子力研究所建設準備室が発足、設計～雇工の前提としての地質の調査や地下水の流れる状況などを把握するため、用地内各所三〇ケ所のボーリング作業を開始しました。

この作業は八月一杯で終了し、本年度の事業予算約六億円の工事設計が樹てられることになります。

これと平行し、国道のつけ替へや原研敷地内の道路の計画も着々すすめられています。

吾が大洗町に国際的な重要施設がいよいよ実現するわけです。町民皆さん方の一そうの御協力を願ってやみません。（写真はボーリングの作業現場と、掘り出されて検査をまつ土壌群）

新潟震災地に

温かいおくりもの

六月十六日新潟地方に突如発生した地震は、大正十二年の関東地震につぐ大きなもので、その惨状は皆さんも、新聞、ラジオ、テレビなどで既に御承知のことと存じます。当町におきましては、これら多くの罹災者に対し、見舞の金品を贈ろうと町内全般に呼びかけていましたが、早速左記の方々から温かい御協力が寄せられました。

早速七月二日日赤水戸支部に現金一六九、一五七円の他、衣料品数百点を贈り届けました。

心から御礼申上げます。

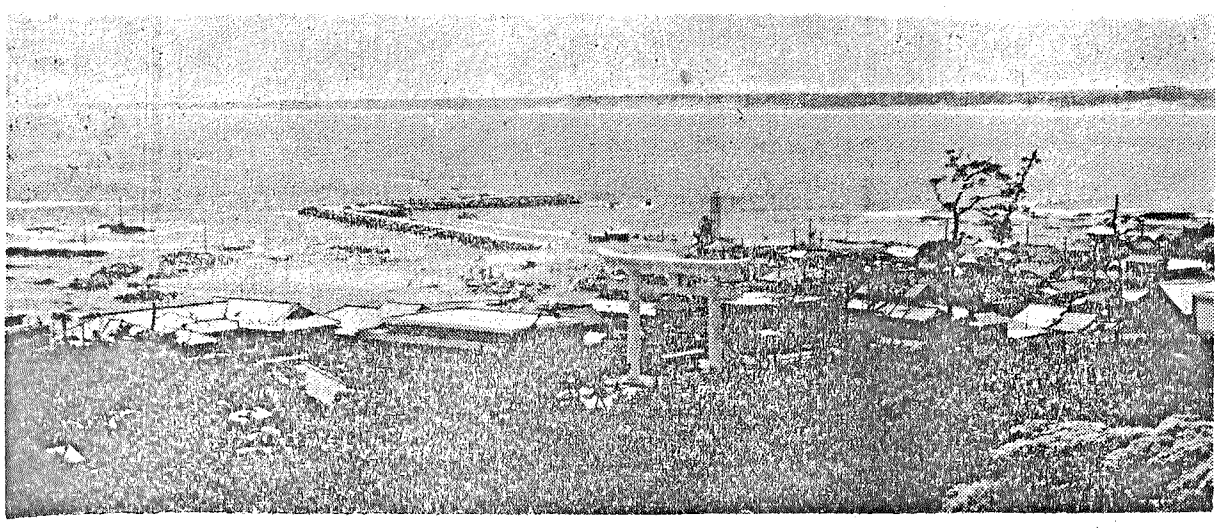
記

坂本　孝様　現金　三、〇〇〇円
明正会　一同　様　三、〇〇〇円
クリーニング組合一同様　二、〇〇〇円
永町十二区一同様　一〇、〇〇〇円
徳重丸冷凍従業員様　五、〇〇〇円
二丁目一区一同様　一、三八〇円
明神町十区一同様　一、八六〇円
町議会議員一同様　一〇、〇〇〇円
小神野まつ様　一、〇〇〇円
磯浜水産加工組合様　一〇、〇〇〇円
明神町七区一同様　三、一五〇円
永井忠尚様　一、〇〇〇円
新町二区一同様　三、四五〇円
夏梅荘様
関根珠算塾様　一、五〇〇円
〃（第一）（第二）　一、五〇〇円
松川部落青年団一同様　一一、〇〇〇円
新町一の二区一同様　三八〇円
広浦干拓一同様　五〇〇円
第一中学校生徒一同様　一三、五〇〇円
磯浜地区婦人会様　七一、三八〇円
大洗町役場職員一同様　一三、一五七円
長南　ちよ様　一〇〇円
川崎益之助様　一〇〇円
大森　義道様　一〇〇円
加島　とよ様　一〇〇円

衣類の部

坂本　孝様　阿久津　修様
加藤眞服店様　久保木　清様
篠田　々す様　原田　綺様
恵泉保育園様　後藤味噌店様
小沼　吉夫様　横須賀　清様
川上　たつ様　大内　まつ様
郡司　きみ様　川上　良吉様
内野与四郎様　関根　信様
塚　きよ様

四年目を迎えた港湾建設
ことしの事業費 一億二千二百万円



大洗港の建設はことし四年目に入りました。工事は極めて順調に進捗し延長二六五米の東防波堤は既に完成、ことしはここに二四五米のパラペット（波返し）が築造され、前年度に引続き南防波堤九八米の延長と仮護岸一一〇米、それに船曳用斜路一一〇米が新らたに造られ更に陸上の埋立て二三、二〇〇平方ができ上ることになります。去る六月二十三日工事の請負契約も完了し、南防波堤の一部の築造工事は、菅原建設株式会社が請負既に着工されました。仮護岸、船船曳用斜路および埋立て工事は近く請負契約が行なわれる予定です。

南防波堤があと少々延長されてくると、小型漁船などの入港碇泊もできるようになることでしょう。ことしの事業に要する町の負担金は一千八百万円です。（写真は逐次でき上ってゆく大洗港の全景）

議会だより

昭和39年大洗町議会第3回定例会

昭和三十九年度補正予算のほか十一議案を審議する第三回定例町議会は、去る六月二十日開会され、真剣な討議の結果、全議案を原案通り可決し同日閉会した。これにより一般会計予算は、九百十三万一千円が追加され、合計二億二千三百八十二万三千円となった。なお補正予算案のほか可決された案件は次のとおりである。

一議案第四十九号。県道路線の少道路編入について

二議案第五十号。町有土地の使用許可について

三報告第一号。寄附受入について

四報告第二号。旧第二中学校舎の処分について

五議案第五十一号。大洗町防災会議条例設定について

六議案第五十二号。大洗町災害対策本部条例設定について

七議案第五十三号。大洗町税条例の全文を改正する条例について

八議案第五十四号。大洗町営プール使用料徴収条例設定について

九議案第五十五号。大洗町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

十議案第五十六号。大洗町特定手数料条例の一部を改正する条例について

十一議案第五十七号。大洗町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について

地域開発と都市計画

町長　加藤　清

町の開発はだんだん進んできた。ことしは港湾の予算が一億二千五百万、そのうち国補事業九千万円の入札が去る六月二十三日に決定し、三十九年度分が初まった。埋立ても拡大されるはずだし、ことしの後半期には船も若干入れると思う。原研も殆んど土地がきまり（ごく少数に未定）六月から大洗原研建設準備室が正式に発足して東海原研事務部長の川上さんが室長に任命された。地質調査と、地形測量が既にはじまっている。観光も一季型より三季型へと移るきざしが見えてきた。

ここ数年間町全体の力を結集して努力してきた結果が漸やく現れようとしている。勿論これには私達の周囲を取巻く客観情勢というものが、大きく働いていることは事実である。天の時、地の利、人の和、これは何時の時代でも必要な条件である。私達は町の立地条件を最大限に生かして開発を図って行かねばならない。

恐らくここ数年間開発の速度というものは、従来の何倍かに相当するであろうと思う。従って私達は受入態勢に万全を期さなければならない。ただ非常に困ることは、民間ベースがどんどん進んでゆくそれに公共事業が、なかなかついて行けないという悩みである。例えば道路計画が立てて、それができ上る頃はもう狭くなってしまったとか、水道計画を立てて、それが完成する頃はもう一杯で足りなくなっているという始末である。

どう解決したらよいのか、私達の町は現在大きな課題をかかえているがその一つは都市計画の問題である。特に産業の開発が進むにつれて、考えなければならないことは社会的な開発の問題である。即ち道路、交教、上下水道、衛生等、こうした住民にとって、ほんとうに大切な事がおくれることのないよう、できるだけ留意して行かねばならない。そしてこれらの総合した企画を立てて、基本的な方針を決め、実施に入って行くのが都市計画であって、開発のテンポが早く、しかもいろいろの要素が一度に動き出さんとしている今日ほど、町にとって都市計画が重要度をもってきていることは否定し得ないところである。

私達の町では昭和二十八年六月、磯浜地区と大貫地区が都市計画の指定を受けた。夏海地区が合併したのが昭和三十年であるから、この地区だけはまだ受けていないわけである。

私は、夏海地区も当然その指定を受けるべきであると考えておったところ、今度原研建設という大きな目標が打ち立てられ、たちまち国の問題に直面したわけである。さてここで問題になるのは、原研、大貫地区をも含めて町全体としての都市計画の前に、地帯整備計画という特殊地帯を考えると、一般的に総合的に考えられなければならない点でもある。私は都市計画という大きな課題に取組まなければならないということである。

現在、私達はいろいろ構想を立てており、近く議会にも諮り、専門家にも参画わねばならないと思っているが、これはできるだけ急がねばなるまい。

例えば夏海地区だけ考えてみても原研施設の周辺に、ある巾をもった緑地帯を設けることは必要であり、また未定ではあるが、アイソトープの関連工場等を建てる場合はその地帯をどこにするか、或はまた今後の住宅地帯や商業地帯をどうとるかということも検討されなければならない。そして、それらの地域指定だと考えているがどうであろうか。もっと具体的にいうと、磯浜、大貫地区を含めての街路計画は、大洗宮前地区の拡張を基点として、海門橋に至る路線は進んでいるが、今後、涸沼橋畔から大洗公園に通ずる山手新設路線はできるだけ急がねばならない。そして両者は共に大貫の街路につながり、それがまた夏海地区の街路につながってゆくわけである。

これらの幹線道路は町を中心として考えた場合、対外的に、例えば常澄、水戸を経て六号国道へ、或は那珂湊を経て東海、日立へ、或は旭村を経て鹿島へと、大きく将来を決定するであろうと考えられるだけ重要である。地帯整備を中心とした夏海地区を含めての磯浜、大貫地区の用途別地域指定も急がねばならない。

涸沼、観光、原研等大洗はまことに多彩であるが、私達はこうした点の線から、今後これらの絵んだ面の世界を考えて行かなければならない。そしてその中で、前述した住宅や学校や、水道、下水等を整然と造ってゆかなければならないわけである。こうしたことを考えてゆくと、必ず壁につき当るところは財政の問題である。新設道路一本つくるにしても一億円はかかる、これをどうするか。勿論国や県の強い助成をもとめ、起債や自己資金に賄ってゆかねばならないのであるが、町で開発公社を作り、そうした部門を推進してゆくことも一つの案であろうと思う。現在、幹線道路の舗装は着々と進んでいるが、下水が非常におくれており、町民にも大分迷惑をかけている。このことも常に私の念頭を去らない。何んとかして早く整備を図りたいと気ばかりあせっているのが現状である。

しかし鹿島鉄道も着工線になり、今や大洗が開発の脚光を浴びて各方面から注目されていればいるほど、私達の任務は重大であり、なんとか英知と勇気をもって打開してゆかねばならない。また、こうした事も大切な基礎づくりは、町民全体の強い協力態勢がなければおそらくむずかしいわけであり、この意味でも今後の御支援を強くお願いしたい。

ぼくらも火災予防に協力
一中に少年消防団発足

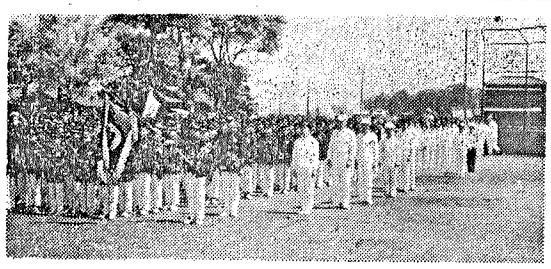
多くの災害のなかでも、火災による損害は非常に莫大なものであり且つ文化生活が高まるに従い、その件数も日毎に増えつつあります。幸いにしてわが大洗町では町消防団のみなさんの熱心な努力と精進のおかげで、いままで大きな火災もなく、最少限の被害でくい止めていただいておりますことは、まことに感謝に堪へません。

このほど大洗第一中学校では、石橋校長先生の発議により、少年消防団を結成することとなり、かねがね、県の消防防災課の指導のもとに担当の先生方が中心となって準備をすすめていましたが、いよいよ本決りとなり、去る五月十三日一中グランドにおいて、結成式が挙行されました。当日は県消防防災課係官、加藤町長大洗PTA会長、坂本消防団長、管内全消防分団長その他来賓多数が出席され厳しゅく盛大に行われました。

国歌斉唱のうちに国旗掲揚、校長先生より松本団長以下全団員に対し任命書の交附、町長さんより団員徽章の授与があり、つづいて校長先生の式辞、来賓各位より激励の言葉があったあと、校旗を先頭に団長以下四ケ分団の分団長指揮する分列行進が行われました。その行進は実に整然とした立派なものであり、県下に精鋭を誇る大洗町消防団のそれに勝るとも劣らないものでした。最後に坂本団長の音頭により少年消防団の前途を祝福する万才が三唱され、有意義に結成式を閉じたのであります。式終了後先般行はれた茨城県市町村消防ポンプ操法競技大会に郡代表として参加し、栄ある優勝を獲ち得た我等が精鋭第五分団員による模範操法が公開され、少年消防団の諸君はその厳然たる規律、迅速にしてしかも正確な動作に全員感嘆の声をもらし、惜しみなく拍手を送っていました。

今後の少年消防団の活躍が大いに期待されますが、ここで御注意申上げたいことは、少年消防団の任務は直接火災現場に出動し、防火作業に従事するものではなく、平常における基礎的訓練（避難訓練、消火器取扱）学校防災対策、火災予防思想の啓発、春秋の火防週間の行事に参加するほか、交通、水難、防犯などのためにも協力することがその任務となっています。

町民の皆さんには、このように少年消防団の諸君が一生懸命火災予防に努力しようとする健気な精神を充分認識され、心から感謝と敬服を払われこれが健全な育成を助け、豊かな住みよい大洗町の町づくりに御協力下さるようお願い申上げます。（写真説明は写真の下に）



奨学生きまる
山本君など六名

昨年制定された大洗町奨学資金支給条例にもとずき、ことしの奨学生を選ぶ強考審議委員会は、去る五月八日開かれ、昨年選ばれた三名のほか、新らたに次の三名の人達が決定し、合計六名の奨学生となりました。

柳　ひさ江　磯浜町七四〇（那珂湊一高商業科　2年）
山本　響行　〃一、二五一（水戸工業機械科　2年）
青川　秀夫　大貫町二五一（勝田工業〃　2年）
秋葉　章江　〃四（那珂湊一高商業科　1年）
高橋　健夫　磯浜町一、六五六（那珂湊一高商業科　1年）
勝治　健二　大貫町八七の一（水戸工業機械科　1年）

みなさんの御健斗を心から祈ってやみません。

体育館の備品のたしにと
商店会と専門店会で十万円

大洗町商店会（代表米山徳次さんほか二二七名）および大洗町専門店会（代表米山徳次さんほか二八名）ではこのほど新装なった第一中学校屋内体育館の備品購入費の一部にとそれぞれ金五万円ずつ計十万円を寄贈して下さいました。かかる皆さん方の厚いお志しに対し心から感謝申上げます。

住宅難の解消へ十七戸の増築

住宅の不足は年ごとに激しくなり国や県などでもこの対策に腐心し大竜らとなっています。

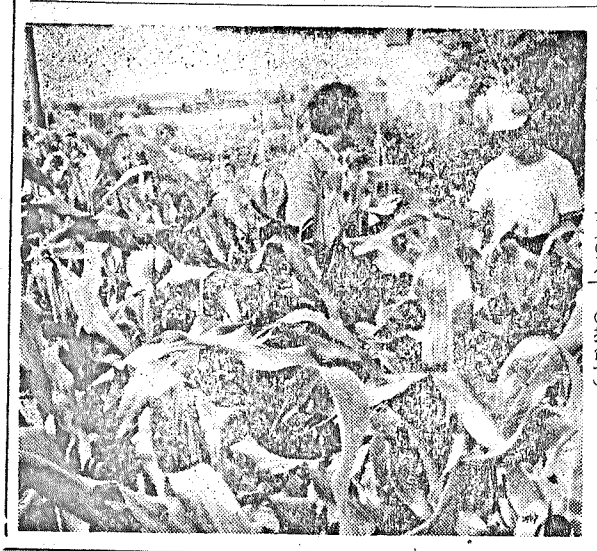
大洗町で既に七〇戸の町営住宅がつくられていますが、まだまだ足りません。町ではことし前原山地区に、木造第二種住宅十七戸増築し幾分でも住宅難の緩和をはかってゆくことになりました。

建物の構造は、木造平家建で、六帖、四帖半の二間と、台所、便所浴室などで合計建坪九・五坪です。総事業費は八百七十三万二千円、このうち国の補助金四百八十二万円、起債（国からの借入金）百万円、町の自己負担三百九十万円です。

大洗産とうもろこし
東京市場で好評

畑作の省力化と、麦作甘藷中心の経営から、商品生産の経営に移行すべく、かねてから町や大洗農協改良普及所など検討をしてきましたが、食用とうもろこし（ゴールデンバンダム）の栽培をことし試作として実施しました。

去る七月七日第一回の東京出荷を皮切りに目下出荷の最盛期でありますが、大洗農協のレッテルの入ったとうもろこしは、東京市場で多大の好評を博し、十キロ当り五〇〇円前後の高価で取引きされています。明年度の作付計画にも極めて明るい希望がもたれると同時に、大洗地区全般の畑作経営の転換に与える影響は非常に大きいものがあることと思います。



（写真は現場における共同出荷の打合せ）